

野山運輸株式会社に勤める間宮は、預金残高を確認するために、銀行に電話を入れた。

「ありがとうございます。三井住友銀行横浜西支店でございます」

「私、野山運輸株式会社経理部の間宮と申しますが、当座預金の残高を確認したいのですが」「かしこまりました。それでは折り返しお電話でお知らせすることになります。よろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「では、お口座番号とお名前、それとお届けになっているご住所とお電話番号をお願いいたします」

「はい、口座番号が当座預金の四一四七二四二、野山運輸株式会社です。住所は横浜市中区山下町二一四―二〇七、電話番号は〇四五―二二四―七二二七です」

「かしこまりました。私、安田と申します。すぐにお調べして折り返しお電話いたします」

「よろしく願います」

受話器を置いてから数分後、間宮あての電話が取り次がれた。

「間宮さん！ 横浜銀行の安田さんという方から二番にお電話です」

「はい、間宮です」

「もしもし、横浜銀行根岸支店の安田と申しますが、間宮様でいらっしゃいますか？」

「はい、そうです」

「先程お問い合わせいただきました、当座預金残高を申し上げますがよろしいですか？」

「はい、願います」

間宮はあわててメモの用意をした。

「ただ今の残高、七十七万二千四百四円となっております」

「七十七万二千四百四円ですか？ ええと振込が一件あったと思うんですが・・・」

「そうですか。どちら様からおいくらくのお振込ですか？」

「矢野工業株式会社から七十四万円振り込まれているはずですよ」

「それでは振込の確認をしてみますので、少々お待ち下さい」

受話器からは保留のメロディが流れ、数十秒後、

「大変お待たせいたしました。ただ今お調べしてみました、矢野工業株式会社様からの振込は今のところないようです」

「確かに昨日、手続きを済ませたと言っていたんですけれど」

「電信振込か文書振込、どちらで手続きされたかおわかりになりますか？」

「いいえ、わかりません」

「電信扱いですと当日入金になります、文書扱いですと入金までに多少お時間をいただくこととなりますので、おそらく先方様は文書扱いで振込まれたのではないのでしょうか？」

「そうかもしれません。ではその場合、入金されるのはいつ頃になるのでしょうか？」

「通常は二、三日で入金となります」

「そうですか。早ければ明日には入金されるかもしれませんがね。ではまた明日、確認してみます。ありがとうございます」

間宮は少しホッとした表情で受話器を置いた。